

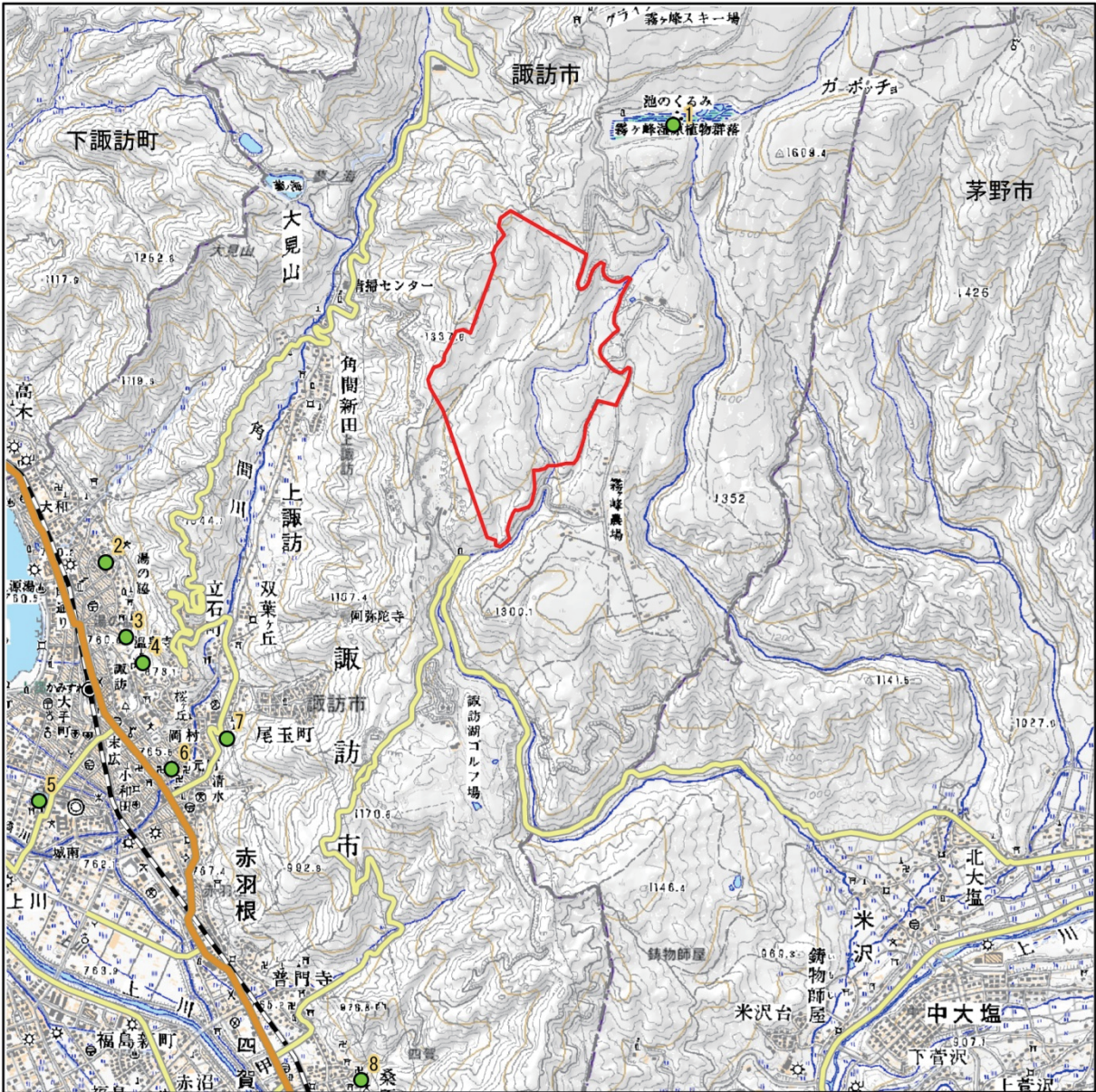
#### 4) 植物の天然記念物等

対象事業実施区域及びその周辺における植物に係る天然記念物の分布状況を表 2-3-24 及び図 2-3-9 に示す。対象事業実施区域及びその周辺では、8 件が指定されている。

表 2-3-24 植物に係る天然記念物の状況

区分	No	名称	指定	所在地
諏訪市	1	霧ヶ峰湿原植物群落	国指定	霧ヶ峰
	2	先の宮のケヤキ	市指定	先の宮神社
	3	温泉寺の枝垂桜		温泉寺
	4	手長の森		上諏訪茶臼山
	5	高島城のフジ		高島 1
		高島城のキハダ		高島 1
	6	貞松院のシダレザクラ		貞松院
	7	地藏寺庭園		地藏寺
8	仏法寺イチョウ	仏法紹隆寺		

出典：諏訪市ウェブサイト、茅野市ウェブサイト「天然記念物一覧」（平成 29 年 11 月確認）



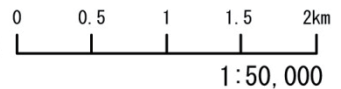
凡 例

- 対象事業実施区域
- 天然記念物

図 2-3-9

植物に係る天然記念物等の分布状況

出典：諏訪市ウェブサイト、茅野市ウェブサイト  
「天然記念物一覧」（平成 29 年 11 月確認）





### 3. 生態系

#### 1) 生態系の概要

対象事業実施区域及びその周辺地域は、主にカラマツ植林、アカマツ林、落葉広葉樹林などの森林となっている。また、対象事業実施区域より北側には、ツルコケモミーズゴケクラスからなる踊場湿原が存在し、その周囲には、霧ヶ峰の草地（ススキ群団やレンゲツツジーズミ群集）が見られる。

対象事業実施区域内には、小河川が流れ、河川周辺には湿地も存在する。また、本地域は、かつては牧草地として利用されており、その後、植林されて現在の環境となっている。周辺に霧ヶ峰の草地や湿地に近い場所に位置していることから、動植物については共通の種が生息、生育する可能性がある。

対象事業実施区域における生態系としては、既往文献及び予備調査を踏まえると、植林区域を含む森林とその林床、一部に見られる草地と湿地に生育する草本類を生産者とし、第一次消費者として、バッタ類やチョウ類等の草食性昆虫、ノウサギ、ホンドリカ等の哺乳類、第二次消費者としては、トンボ類等の肉食性昆虫類やカエル類が生息すると想定される。

第三次消費者としては、小型の鳥類やコウモリ類、ヘビ類が生息する。最上位の消費者としては、肉食の中型哺乳類（キツネやテン）、猛禽類等が位置づけられる。

また、河川には、生産者として藻類等、第一次消費者としては、草食性の水生昆虫類（カゲロウやトビケラ等）、第二次消費者としては肉食性の水生昆虫類（カワゲラやトビケラ等）、最上位の消費者としては、イワナ等の魚類、ハコネサンショウウオ等の両生類が存在することが想定される。

#### 2) 環境類型区分ごとの特性

環境類型区分ごとの特性について以下にまとめる。

##### ① 樹林地生態系

対象事業実施区域内は、斜面から尾根にかけてカラマツやアカマツ等の針葉樹が優占する高木林となっており、斜面の一部にはミズナラやシラカンバ等の落葉広葉樹が生育する。高木林の林床には、レンゲツツジやサワフタギ等の低木が点在して生育し、下層にはニッコウザサなどのササ類が繁茂する箇所が多い。対象事業実施区域一帯はニホンジカが多く確認され、林床の植生も比較的疎らとなっている。

林内では、クロカタビロオサムシやピロウドヒラタシテムシなど森林性の地上徘徊性昆虫類が確認された。また、ニホンジカやタヌキの生息が確認されたほか、ヤマドリ、コゲラ、アカゲラ、カケス等の鳥類が確認された。猛禽類ではハイタカ、ノスリの営巣が確認された。

##### ② 草地生態系

対象事業実施区域内には、調査範囲内の北側や湿地周辺の乾燥した場所を中心にススキ群団等の草地生態系が形成されている。これらの草地生態系は、樹冠が開け明るいことからススキが優占するほか、ワラビ、ワレモコウ、ミツバツチグリなどの草本類が生育する。

昆虫類では、ススキを食草とするギンイチモンジセセリが確認されたほかヒメシジミなど草地性のチョウ類、ヒシウンカモドキも確認された。湿地周辺の草地には、明るい草地に生息するヒメヒカゲやヒョウモンチョウも生息する。鳥類ではモズやウグイス、ヤブサメ、爬虫類では明るい環境に生息するニホンカナヘビ、哺乳類ではノウサギやアカネズミなどが確認された。

##### ③ 湿地生態系

対象事業実施区域内の谷部には、明るい緩斜面に複数の河川が流下し、河川の周囲には湿地環境が広がる。

湿原内では、中層湿原にみられるヌマガヤ-ミズゴケ群落、ヌマガヤ-ヌマクロボスゲ群落、ヌマガヤ-キセルアザミ群集や低層湿原にみられるアゼスゲ-サギスゲ群落、イトイヌノヒゲ-クロイヌノヒゲモドキ群落、ヤマアゼスゲ群落、オタルスゲ群落などが形成され

ている。沢を中心としてズミが優占し、これらの湿地環境には、エンビセンノウやトキノウ、ミズチドリ、ヌマクロボスグなどの湿性植物が生育する。沢より一段高い林床にはサクラソウが広範囲に生育する。

また、湿地にはムラサキトビケラやユスリカ類などの底生動物が生息する。湿地に形成される止水環境（水たまり）は、アズマヒキガエルやヤマアカガエル、シュレーゲルアオガエルの繁殖場所として利用されているほか、砂泥中にはマメシジミ類も生息する。

#### ④ 河川生態系

対象事業実施区域内には、主には3つの河川が流下している。いずれも川幅は0.5～1.0m程度で勾配は緩く、河床は礫や砂で構成されている。湧水起源となっていることから、水温の変動は小さく、夏季でも20℃を下回るなど年間を通して比較的安定している。また、河川沿いの斜面から出ている湧出水も流入し、場所によっては谷地坊主などがみられる湿地環境を形成している。

これらの河川には、溪流環境に特徴的にみられるカワネズミが生息する。また、サツキマス（アマゴ）、カジカなどの溪流性魚類が生息するほか、ノギカワゲラ、キタガミトビケラなどの溪流性の底生動物も生息する。対象事業実施区域内では、サツキマス（アマゴ）の産卵が確認されており、特に東側流域では全域がサツキマス（アマゴ）の産卵環境として利用されている。川沿いではカワガラスやキセキレイなども確認された。

河川沿いの斜面にみられる湧出水は、タゴガエルの繁殖場所として利用されているほか、流水中ではハコネサンショウウオの幼生も確認された。

### 3-5 自然環境の総合的な状況

対象事業実施区域のある諏訪市一帯は、盆地にあるため気温の較差が大きく、降水量が少ないなど、典型的な内陸性気候を示す高燥冷涼地である。また年間を通して晴天が多く、国内でも有数の日照時間が多い地域となっている。

対象事業実施区域は、霧ヶ峰火山の山腹に位置しており、南向きの緩斜面上に位置している。

主たる水系は、対象事業実施区域の南側を流れる上川である。上川は茅野市の八ヶ岳丸山に源を発し、東から西に流下して諏訪湖に注ぐ。

対象事業実施区域及びその周辺は代償植生によって占められ、アカマツ群落とカラマツ植林が優占している。



### 3-6 景観・文化財の状況

#### 1. 景観

##### 1) 自然景観資源

「第3回自然環境保全基礎調査—長野県自然環境情報図」（平成元年、環境庁）によると、対象事業実施区域及びその周辺における自然景観資源を表2-3-25に示す。

対象事業実施区域の北側に位置する霧ヶ峰は、台地上の火山性高原である。草原が維持された雄大な高原の風景は、長野県を代表する景観の一つでもある。霧ヶ峰高原からは、諏訪盆地と諏訪湖、そして八ヶ岳連峰、富士山、南アルプス、中央アルプス、北アルプス等の山並みの眺望が得られる、展望効果の高い場所である。

表 2-3-25 自然景観資源

区 分	自然景観資源名
火山性高原（台地状）	霧ヶ峰
湿原	霧ヶ峰湿原
	池のくるみ湿原

出典：「第3回自然環境保全基礎調査—長野県自然環境情報図」（平成元年、環境庁）

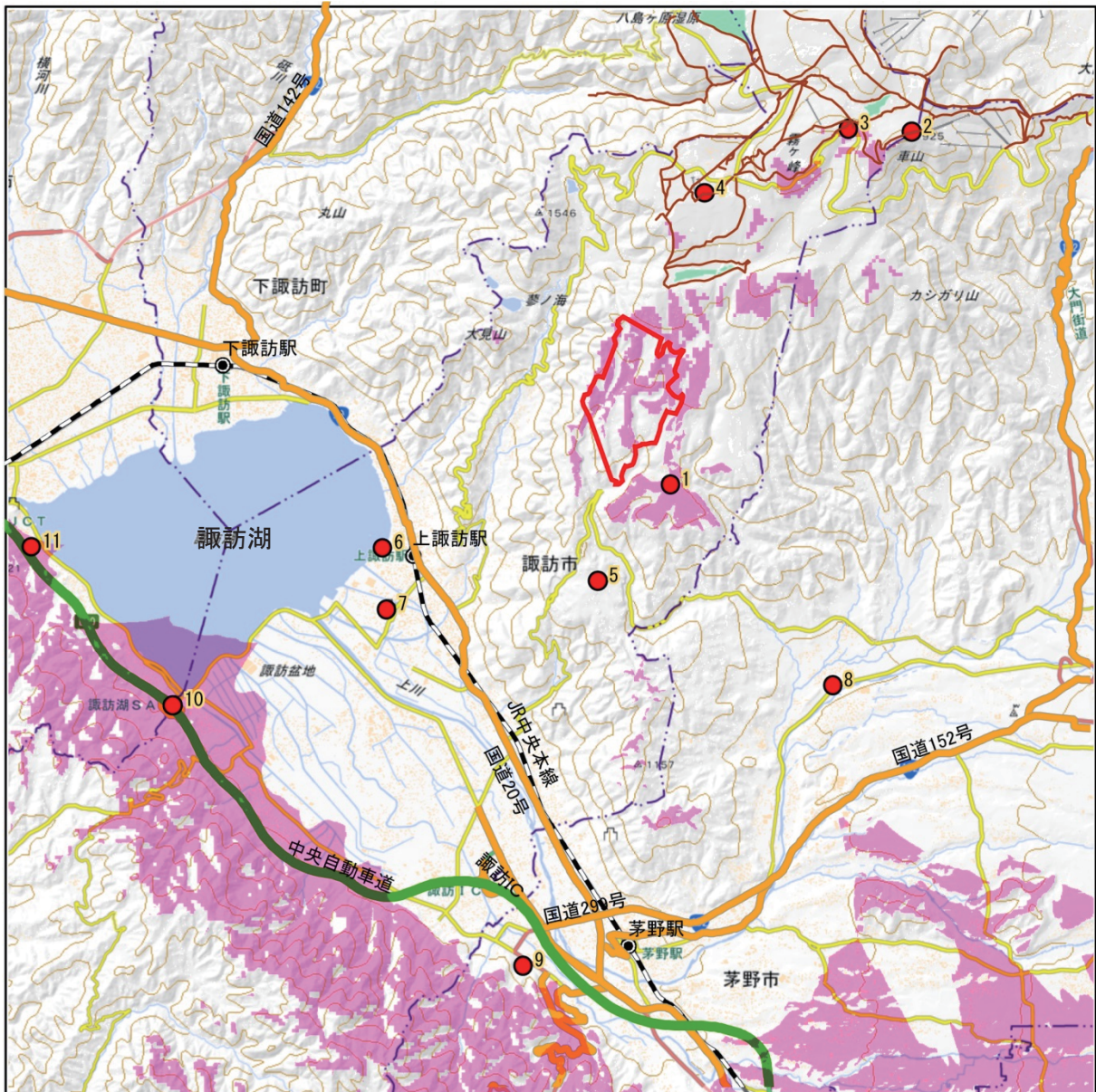
##### 2) 主要な眺望景観

不特定かつ多数の人が利用している主要な眺望点を、表2-3-26及び図2-3-10に示す。本事業は周囲よりも高い場所に位置していること、対象事業区域が約188haと広いことから、通常の景観の調査対象となる3kmよりも広い範囲を対象とした。

予備調査として可視領域の解析を行った結果、表2-3-24に示す地点ではNo.1、2、3、10、11を除く6地点は対象事業実施区域方面を眺望することができないことを確認した。したがって、景観の調査地点としては眺望が得られる5地点を対象とする。

表 2-3-26 主要な眺望地点の状況

地点番号	名 称	眺望の可否
1	霧ヶ峰農場	○
2	車山山頂	○
3	車山肩	○
4	霧鐘塔	×
5	諏訪湖カントリークラブ	×
6	諏訪市湖畔公園	×
7	高島城	×
8	北大塩	×
9	諏訪大社上社	×
10	中央道諏訪湖サービスエリア	○
11	岡谷市諏訪湖畔公園	○



凡 例

- 対象事業実施区域
- 主要な眺望点
- 可視範囲
- 高速道路
- 一般国道
- 霧ヶ峰自然研究路

図 2-3-10  
主要な眺望地点

注) 可視範囲は、対象事業実施区域の上部で尾根上にあたる、最も見えやすい場所が見える範囲を示す。

